

十三の出しとて、
此の條の條をいふ

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

○コニカツとて

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

多人数の出入り

2やのしけし後世に及
海に流るまらりあらし

とあふ夕陽のまよひの

敵にさすこし九海に海牙

こころのこころ

○ちのこ 椿葉のこ

アウラ

○中身ぬ年人年路中

十の先は果や地国は山

海介市あき野ニ三里東年

舟年打とふ山中にて合え

音くまぬまの頁所を

言をらトち三平年

奥沢名取川在ノ女四斗り

娘九斗のちの山の中にて

の如きとありあふ

死に存志にてと

夕人らよかりのち

あふあふのちとあり

とらりし海にあり

入好ソゴテ眼がたうト

ヨクましと陸加を

の北よこ正高あし

一月士も入ドウミヤ

とあし

一ノ士...
...

空也...
...

懐...
...

...

...

...

...

口...
...

...

...

...

...

...

...

...

...